

令和6年9月18日

報道機関各位

長岡市立中央図書館長



新型コロナウイルス禍における市政と市民生活を後世に語りつぐ 長岡市史双書を読む会（全2回）が始まります

歴史文書館は、新型コロナウイルス感染症を取り上げた歴史資料集として、長岡市史双書No. 62「新型コロナウイルス感染症と史料保存 長岡市歴史文書館の試み」を刊行しました。このたび本刊行物をテキストに、「長岡市史双書を読む会」を開催します。

つきましては、下記のとおり概要をお知らせしますので、ぜひ周知にご協力いただくとともに、取材くださるようお願いいたします。

令和6年度 長岡市史双書を読む会

新型コロナウイルス感染症と史料保存 長岡市歴史文書館の試み

- 日時 ①9月20日（金） ②10月4日（金）
午後2時～3時30分まで（全2回*）
※1回のみでの参加も可能です。
- 会場 長岡市歴史文書館 講座室
（長岡市長倉西町458番地7）
- 参加者 約60人（9月18日現在23人）
- 講師 ・中村 ^{なかむら}元 ^{もと}氏（新潟大学教授）
・田中 洋史（科学博物館総括副主幹）
- 内容 テキストの編集・執筆をされたお二人の講師から解説いただき、ウイルス禍の経験と教訓を未来へつなげていく意義について学びます。
- 受講料 無料（テキスト代1,500円）
- その他 申し込み方法など詳細は別添チラシを御参照下さい。



▲テキストの表紙は、新型コロナウイルス感染症犠牲者の慰霊と早期終息を祈願する花火と長生橋

問い合わせ：歴史文書館 広井
TEL 0258-36-7832

主催／長岡市歴史文書館

令和6年度 長岡市史双書を読む会

新型コロナウイルス感染症と史料保存 長岡市歴史文書館の試み



▲ 掲示物や広報誌など、歴史文書館が収集した新型コロナウイルス感染症関係資料の一部

最初の感染確認から約5年。ウイルス禍にあった生活を、どのくらい覚えていますか？

歴史文書館は、新型コロナウイルス感染症の記憶を記録として後世に伝えるため、関係資料を収集・保存しました。

本講座では、コレラや赤痢など、これまでに県内で流行した感染症に関する歴史研究を振り返り、ウイルス禍の経験と教訓を未来へつなげていく取り組みの意義を考えます。

【会場】 長岡市歴史文書館 1階 講座室

【時間】 午後2時～3時30分（開場：午後1時30分）

【期日・講座タイトル・講師】

回数	期日	講座タイトル	講師
第1回	9月20日（金）	近現代新潟県の感染症に関する歴史研究から考える史料保存	新潟大学人文学部 教授 中村 元
第2回	10月4日（金）	新型コロナウイルス感染症と史料保存 —長岡市歴史文書館の試み—	長岡市立科学博物館 総括副主幹 田中 洋史

【受講料】 無料（テキスト代1,500円）。

テキストは長岡市史双書No.6 2『新型コロナウイルス感染症と史料保存 長岡市歴史文書館の試み』を使用します。お持ちでない方は初回到頒布代金1,500円を御持参ください（お釣りのないようお願いします）。

【定員】 60名（先着） ※1回のみ参加も可能です。

【申し込み】 受付期間：8月13日（火）～9月14日（土）

電話もしくは直接来館にてお申し込みください。

【申し込み先】 **長岡市歴史文書館** ※休館日…日曜日・月曜日・祝日

〒940-0849 長岡市長倉西町458-7

電話 0258-36-7832（開館時間：午前9時～午後5時）

◎水分補給のための飲み物などの御持参をお勧めします。